

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0472100080		
法人名	社会福祉法人 大泉会		
事業所名	グループホーム ふるさと	ユニット名	ふる里
所在地	宮城県刈田郡蔵王町宮字下別当72番地		
自己評価作成日	令和 4年 8月 13日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai gokensaku.jp/">http://www.kai gokensaku.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	令和 4年 9月 13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に囲まれた静かな環境にある。春の桜の時期が一番の見ごろである。食事はほとんど全てが手作りで、家庭での食事の様に行っている。季節の野菜がたくさん使われている。週に1回、協力病院より医師が回診に来ていただき、相談しやすい雰囲気と、安心感がある。スタッフ同士のコミュニケーションが取れ、働きやすい職場である。ヒヤリハットを出しやすく、毎月担当を決めて集計し、必要な方にはカンファレンスを行ってスタッフ同士見直せる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは白石市から川崎町に至るコスモスライン沿いにある。開設して20年余り、鉄筋造り1階建てで玄関口までは緩いスロープになっており、凍結防止の構造となっている。広大な敷地に特別養護老人ホーム「楽園が丘」が併設されている。周りには花や木々が沢山植えられ、春には桜並木が満開となる。協力病院である大泉記念病院は24時間対応の救急医療体制をとっているため、医療面で充実したサービスを提供し、入居者や家族が安心している。コロナ禍にあって、職員は笑顔を大切に協力し合い感染防止に努め、一人ひとりを大切にケアに取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 ふるさと )「ユニット名 ふる里 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	大泉会全体の理念と、ふるさとの「ゆったり一緒に楽しく豊かに」をテーマに年度末・年度始めにテーマを決めて、ユニット目標を立て、各個人の目標を設定し、支援を行っている。	「余裕、寄り添う、笑顔、思いやり」をユニット目標にした。各職員の目標を具体的に書き、掲示している。9月に到達度を確認し、管理者が助言やサポートをしている。職員間で情報を共有し、協力し合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の方や法人内のスタッフの行き来もあるため、交流は出来ている。時々、硝子越しで会話もあることもあった。	家族が知人や近所の方を同行し来訪する。コロナ禍でボランティアや町内会との交流は中止している。近隣の方や家族から野菜や山菜等の差し入れがある。地域消防協力隊が避難訓練に参加した。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	相談に来た方や電話での受け付けの中で、情報共有し合い、他の介護保険事業者等を紹介したり、運営会議のなかで認知症や身体拘束についての説明を行い理解を深めてもらった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動内容等の報告を行うとともに、委員の方々より出た話や意見等をサービスの向上に活かす様にしている。身体拘束の適正化について理解していただいた。	運営推進会議メンバーに、ホームの活動内容や入居者の状態等について、写真で報告している。避難訓練の意見や要望を聞いている。2月から書面会議になり、郵送や手渡しをし、口頭で意見を聞いている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町の包括支援センターの方や社協の職員の方々等電話等にて、入所への相談や情報の共有、入所後の状態や退所後の相談等を行っている。運営会議の際も町としての情報を共有されている。	地域包括支援センター職員や町職員とは、日頃から連携が取れている。入院や家庭の事情、入居申請、空き室情報等の情報交換をしている。市主催の研修等はコロナ禍で参加していない。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は玄関のカギを開けており利用者様や地域の方々が入り出りできるようにしている。3ヶ月に一度リーダーを含め拘束をしない会議をし、運営でも委員の理解を深める。	3カ月に1回「身体拘束適正化委員会」を開催し、年2回の研修を年間計画に組み入れて実施している。事例の検討を行い、ベッドからの転落転倒が予測される入居者には、安全の為にセンサーマットやベッド下に低反発マットを使用している。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	朝夕の申し送りや利用者に対してのカンファレンス等で情報共有し合い虐待防止に努める。玄関にパンフレットを設置しており、家族や面会人も見て頂けるようにしている。普段の言葉遣いにも、いつ誰が見てもおかしくない様に心掛けている。	窓に施錠していない。ベッド柵の使用は最小限にしている。否定的な言葉掛けはしていない。虐待の要因となる職員のストレスについて、メンタルケアの研修を行った。入居者の立場に立って支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人全体での研修会や職員室に掲示しておき、いつでも見れる状態としている。成年後見人制度の利用者現時点で2名。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する説明には丁寧に説明を行い、理解、納得を得て了承して頂いている。分からない事や疑問点があれば、その都度対応を行っている。後日、問い合わせある際にも他スタッフが補足含め説明することもある。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族の方々には、いつでも意見や相談がしやすい環境に努めている。意見や相談があった時はスタッフ間で話し合い向上できるよう努める。	面会や通院付き添い時等に家族から「好きなコーヒーを飲ませて」や「歩くようにして」等の要望がある。それらに応じて好きな飲み物を提供したり、歩行器を使用し安全に配慮した対応をしている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見や提案を聞き実践できる事や良い方向へ向かう事については実践出来るようにしている。ユニット会議やリーダー会議でスタッフの意見を聞いたり、個別で直接管理者やリーダーに話すこともあるため話しやすい環境を整えている。	日常的に職員同士のコミュニケーションがとれており、何でも話し合える環境にある。フラインクや体重計、清掃スポンジ等の日用品を職員の要望で購入した。月10日間の休暇があり、有給も取得しやすい環境である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	やりがいや向上心を持って働けるように環境や整備等を整えてくれるように努めている。各個人の目標シートで確認し合い、スキルアップを目指す。1人だけではできないことも、協力し合い目標の達成を目指している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体としての研修への参加。参加できなかったスタッフは資料の確認を行う。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内でも、研修会等に参加したり、互いの質の向上につなげたり、また、情報共有し合う事で質の向上に努める。	法人主催の「高齢者虐待」「倫理」の研修に参加した。コロナ禍で資料配付のみもあった。感染症対策防護具のガウンやグローブ、キャップ等の着脱や手指衛生等の指導は、その後の実践で活かされた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新しい生活環境に不安なく過ごせるよう実態調査時や見学時に聞き取りを行い、以前の環境に近づいて生活出来る支援と安心して生活出来る関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	一度説明しても、理解出来ない事もあるため、その都度説明し、信頼関係を築く。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人が何を求めているのか、必要なものは何なのか、スタッフ同士話し合う。例えば、直ぐに医師に相談し薬を求めるのではなく、私たちに何が出来るのかを話合っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同生活介護の意味を考えながら、スタッフという立場と、家族の様な関係に近づけるよう努めている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話対応や、面会時には近況報告等を密に行ったり、少しの時間でも日々の生活を伝えられるような関係をとれるように努めている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅の近所の方や知人等が硝子越しでの面会や電話連絡をいただき、電話での会話を楽しんでいることがあった。	受診には家族が同行している。定期的に来訪する理容師と馴染みになっている。本人の要望で自宅に荷物を取りに職員と行った。入居者同士が馴染みになり、カーテンを開けたり衣類の収納を頼み合うなどしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	出来ないことの支援をスタッフが間に入り、支援している。耳が遠い方もいるため、スタッフが会話の中の間に入り利用者との関わりを深める。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も何度か家族がホームを訪れ、本人の状況を説明して頂き、再入所の可能性もあることの説明や、相談しやすい関係づくり支援を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人が何を求めているのか、言葉で表現できなければ目で見て選んでもらう。例えば、何が食べたいか広告等をみて選びやすい環境を整える。	表現が困難な入居者に二者択一で選んでもらう対応をしている。献立はスーパー等のチラシを見ながら、好みを引き出すなど、意向の把握に努めている。入浴時は洋服を見せて選んでもらっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様本人や家族の方より、これまでの生活や経歴、出来事について教えていただいたりしている。また、より近い環境を整え安心してもらう。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日バイタルチェック、SPO2計測を行い、1人1人の変化や現状を把握出来るように努めている。状態の変化等が見られた時はカンファレンスを行いその時の状態に合わせた対応に変えたり、医師へ相談して指示をいただいたりしている。出来る限り日中は離床を心掛ける。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様それぞれについて意見があればリーダーや管理者に報告、カンファレンスを行い本人に合ったケアが出来るように介護計画を作成するように努めている。	日々の生活をモニタリングしている。車椅子で姿勢保持が難しくなった方には、座面にクッション等を使用し、1週間位試用して介護計画に反映した。食器を持ちやすく、すくいやすい物に変更した方もいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、時間を追ってケアの実践、気づきや状態の変化等をケース記録に記入して、スタッフ間で情報を共有しながら、それらを計画に生かすように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の協力も頂く方もあれば、それぞれの状況に合わせ、必要に応じて通院送迎や付き添い、スタッフが日用品の買い物等の対応を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	手仕事、掲示物作り(カレンダーや)季節の掲示物等で見極め、活動している。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医へ入所後も変わらず、受診できるように送迎・付き添いを行うこともある。かかりつけ医の近況報告し、支援している。	入居者の大半は協力医による週1回の訪問診療を受けている。皮膚科や心療内科等の受診は家族が対応している。通院時は入居者の状態変化などの情報を伝えている。受診結果は職員間で共有している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	通院が必要か見極めに、法人内の特養看護師へ相談することもある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	担当医師や病院の相談員などと情報交換し、本人がどんな状態なのか、退院はいつごろになるのか等の連絡を取り合っている。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	急変がおきた時には病院に連絡を行い指示を頂くようにしている。又、連絡網やマニュアルを作成して、いつでも見られる状態にしている。通院が必要な時には楽園が丘の看護師にも協力依頼することもある。	入居時に「入居者の重度化及び看取り介護に関する指針」を明文化して、本人や家族に説明している。食欲の低下や脱水などの状態変化時には、医師の指示を仰ぎ、救急車で搬送している。最近看取りはない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変がおきた時には病院に連絡を行い指示を頂くようにしている。又、連絡網やマニュアルを作成して、いつでも見られる状態にしている。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練等の実施、併設の特養スタッフや地域の消防協力隊が火災や災害が起きた時には協力していただける。	夜間想定を含む年2回の避難訓練と消火器操作訓練を行った。法人職員や地域の消防協力隊が参加し、入居者の見守りをした。米やレトルト食品、缶詰、飲料水等3日分の備蓄をし、毛布やストーブ等準備している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人に対しての言葉遣いや態度に気をつけて接するように努めている。その時の状況に応じた言葉の使い方、声掛けを心掛けをしている。	会話の際は、本人と向かい合い、目線を合わせることを意識している。名前に「さん」付けで声かけをしている。居室への出入りは、ノックと声かけをしている。排泄時は居室のドアとトイレのドアを閉めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	場面場面で自己決定できるような問いかけや思い、希望を表わせるように言葉や態度に注意し働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースを優先に考えトイレ誘導や排泄ケア等、本人の希望に沿った生活を送っていただくように努めている。また、これまで嗜好品(果物等)の管理が出来ていたが、難しいためスタッフ支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	いつも同じ服にならない様に季節にあった服を本人へ確認し、身だしなみを整えている。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	リクエストメニューを取り入れ、誕生日に好みの物を提供している。食後の片づけを一緒にしている。自助具を使用して、食べやすく提供。個々に合わせ食形態を変えている。	食材は地域の店を利用している。献立や調理は職員が行っている。洗い物や皮むき等をする入居者もいる。誕生日に鮭やプリン等のリクエストメニューを楽しんでいる。住民や家族から、栗やきのこの差し入れがある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	箸やスプーン、フォーク、器等をその方の状態にあわせ提供している。水分量が以前より少なくなった方に対しては、スポーツドリンクやゼリーなど食べやすいもので補給してもらうなど工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自力で口腔ケア出来ない方については、支援・介助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレへの声掛けや誘導、介助にて排泄を行う方等、その方に合わせた排泄の排泄支援を行っている。トイレに行く合図を見逃さずに誘導するようにしている。	職員は排泄パターンや立ち上がるなどのサインを把握し、対応している。大半の人が、居室のトイレで排泄している。夜間は見守りや誘導、定時交換をしている。居室にはナースコールがあり、職員を呼ぶことができる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘が目立ってきた方へ青汁や牛乳、氷水、スポーツドリンクなど、その方に合わせた水分の提供を行っている。また皆さんへは毎日牛乳を提供している。自家製ヨーグルトも提供している。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	入浴前にはバイタルチェックを行い、本人からの体調変化等について聞き入浴の可否としている。2名で介助を行い入浴している方もおり、その方に合った支援が出来るように努めている。自力で入浴できる方についてはあまり手を加える事のないような入浴を心掛けている。	脱衣所は温風ヒーターを使用、浴室内の暖房を調整できる。洗身や脱衣など自分で出来ることはしてもらい、介助がやり過ぎにならないようにしている。皮膚状態に応じ、肌に優しい石鹸を使用する人もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は活動していただき、夜間は安眠していただけるように努めている。夜間、テレビをつけている方もいるためタイミングをみて消すようにしている。室内の温度等にも気をつけるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフが分かるように処方ファイルを作成して、いつでも見られる状態にしている。その人にあった渡し方にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除、洗濯干し、洗濯たみ、調理の下ごしらえ、ゴミ捨て等、その方が出来る事をしてもらい、生活を送っていただけるように支援している。花植えや、水やりも行った。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日にはなるべく散歩と外気浴を兼ねてゴミ捨てへ戸外に出れるように支援している。外の景色や花などをみってもらう。通院時等、家族と外出が出来るように支援している。	コロナ禍で外出は通院に限られている。ホーム周辺を散歩して、気分転換や運動を楽しんでいる。敷地内で花見をした。中庭で花植えや水やりをする方もいる。外出が減った分、スイカ割りや七夕会で楽しむ支援をした。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の預かり管理は本人、家族の要請を受け行うようにしています。買い物等で使う際には出金して、台帳に記入を行っています。小銭を個人で管理している方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	公衆電話が設置されており、好きな時に電話を掛けたり、番号の確認を行ったりしている。手紙については郵便配達の時に出している。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	談話コーナーにはテーブル、イスを設置しており、誰でもくつろげるようにしています。いつでも休むことが出来るようにしている。	食堂には、桜や鯉のぼり、紫陽花、花火等の季節のぬり絵や貼り絵が壁面に飾られている。ソファで読書をして1日を過ごす入居者もいる。テラスのベンチで日光浴やおしゃべりをする等思い思いに過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	2ヶ所の談話コーナーを設け、ソファ、テーブル、イスを設置している。食堂前のテラスにもベンチやテーブルを置き、いつでもくつろげるようにしている。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の方にも協力していただき使い慣れた物や馴染みの品を持って来てもらうようにしている。GHIにて用意した物等を飾っている方もいる。	位牌や椅子、掛け時計等の馴染みの物を置き、孫の写真や手作りカレンダー、お誕生日カード等を飾っている。換気や掃除は職員が行っている。食後居室で横になる入居者もいて、好きなように過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自力で出来る事は、本人から依頼等があるまで見守り、なるべく自力で行ってもらうように声掛けを行っている。又、一緒に行う事で安心、安全に生活が送れるようにしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0472100080		
法人名	社会福祉法人 大泉会		
事業所名	グループホーム ふるさと	ユニット名	わが家
所在地	宮城県刈田郡蔵王町宮字下別当72番地		
自己評価作成日	令和 4年 8月 13日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai gokensaku.jp/">http://www.kai gokensaku.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	令和 4年 9月 13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に囲まれた静かなところで、静かに生活する事が出来る。毎年、花見を楽しみにしている。協力病院の大泉記念病院の医師が、毎週回診に来ていただき、利用者・スタッフ共に安心感がある。少ない人数だからこそ、ゆっくり生活することが出来る。出来なくなってきてもできる事をどうやってしてもらうか考え支援出来る所まで行えている。毎月の行事で、メリハリを付け季節感等を実感してもらえる様掲示物等、支援協力している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは白石市から川崎町に至るコスモスライン沿いにある。開設して20年余り、鉄筋造り1階建てで玄関口までは緩いスロープになっており、凍結防止の構造となっている。広大な敷地に特別養護老人ホーム「楽園が丘」が併設されている。周りには花や木々が沢山植えられ、春には桜並木が満開となる。協力病院である大泉記念病院は24時間対応の救急医療体制をとっているため、医療面で充実したサービスを提供し、入居者や家族が安心して居る。コロナ禍にあって、職員は笑顔を大切に協力し合い感染防止に努め、一人ひとりを大切にケアに取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 ふるさと )「ユニット名 わが家 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	大泉会全体の理念と、ふるさとの「ゆったり一緒に楽しく豊かに」をテーマに年度末・年度始めにテーマを決めて、ユニット目標を立て、各個人の目標を設定し、支援を行っている。	「余裕、寄り添う、笑顔、思いやり」をユニット目標にした。各職員の目標を具体的に書き、掲示している。9月に到達度を確認し、管理者が助言やサポートをしている。職員間で情報を共有し、協力し合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の方や法人内のスタッフの行き来もあるため、交流は出来ている。時々、硝子越しで会話もあることもあった。通院時に接触する機会もあった。	家族が知人や近所の方を同行し来訪する。コロナ禍でボランティアや町内会との交流は中止している。近隣の方や家族から野菜や山菜等の差し入れがある。地域消防協力隊が避難訓練に参加した。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	相談に来た方や、情報共有し合い、他の介護保険事業者等を紹介したり、運営会議のなかで認知症や身体拘束についての説明を行い理解を深めてもらった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動内容等の報告を行うとともに、委員の方々より出た話や意見等をサービスの向上に活かす様にしている。身体拘束の適正化について理解していただいた。	運営推進会議メンバーに、ホームの活動内容や入居者の状態等について、写真で報告している。避難訓練の意見や要望を聞いている。2月から書面会議になり、郵送や手渡しをし、口頭で意見を聞いている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町の包括支援センターの方や社協の職員の方々等電話等にて、入所への相談や情報の共有、入所後の状態や退所後の相談等を行っている。運営会議の際も町としての情報を共有されている。	地域包括支援センター職員や町職員とは、日頃から連携が取れている。入院や家庭の事情、入居申請、空き室情報等の情報交換をしている。市主催の研修等はコロナ禍で参加していない。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は玄関のカギを開けており本人や地域の方々が出入りできるようにしている。3ヶ月に一度リーダー含め拘束をしない会議をし、運営でも委員の理解を深める。	3カ月に1回「身体拘束適正化委員会」を開催し、年2回の研修を年間計画に組み入れて実施している。事例の検討を行い、ベッドからの転落転倒が予測される入居者には、安全の為にセンサーマットやベッド下に低反発マットを使用している。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	朝夕の申し送りや利用者に対してのカンファレンス等で情報共有し合い虐待防止に努める。玄関にパンフレットを設置しており、家族や面会人も見て頂けるようにしている。普段の言葉遣いにも、いつ誰が見てもおかしくない様に心掛けている。	窓に施錠していない。ベッド柵の使用は最小限にしている。否定的な言葉掛けはしていない。虐待の要因となる職員のストレスについて、メンタルケアの研修を行った。入居者の立場に立って支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人全体での研修会や職員室に掲示しておき、いつでも見れる状態としている。わが家棟成年後見人制度の利用者現時点で2名。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する説明には丁寧に説明を行い、理解、納得を得て了承して頂いている。分からない事や疑問点があれば、その都度対応を行っている。後日、問い合わせある際にも他スタッフを補足含め説明することもある。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	いつでも意見や相談がしやすい環境に努めている。意見や相談があった時はスタッフ間で話し合い向上できるよう努める。	面会や通院付き添い時等に家族から「好きなコーヒーを飲ませて」や「歩くようにして」等の要望がある。それらに応じて好きな飲み物を提供したり、歩行器を使用し安全に配慮した対応をしている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見や提案を聞き実践できる事や良い方向へ向かう事については実践出来るようにしている。ユニット会議やリーダー会議でスタッフの意見を聞いたり、個別で直接管理者やリーダーに話すこともあるため話しやすい環境を整えている。	日常的に職員同士のコミュニケーションがとれており、何でも話し合える環境にある。フライパンや体重計、清掃スポンジ等の日用品を職員の要望で購入した。月10日間の休暇があり、有給も取得しやすい環境である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	やりがいや向上心を持って働けるように環境や整備等を整えてくれるように努めている。各個人の目標シートで確認し合い、スキルアップを目指す。1人だけではできないことも、協力し合い目標の達成を目指している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体としての研修への参加。参加できなかったスタッフは資料の確認を行う。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内でも、研修会等に参加したり、互いの質の向上につなげたり、また、情報共有し合う事で質の向上に努める。	法人主催の「高齢者虐待」「倫理」の研修に参加した。コロナ禍で資料配付のみもあった。感染症対策防護具のガウンやグローブ、キャップ等の着脱や手指衛生等の指導は、その後の実践で活かされた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新しい生活環境に不安なく過ごせるよう実態調査時や見学時に聞き取りを行い、以前の環境に近づいて生活出来る支援と安心して生活出来る関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	一度説明しても、理解出来ない事もあるため、その都度説明し、信頼関係を築く。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人が何を求めているのか、必要なものは何なのか、スタッフ同士話し合う。例えば、直ぐに医師に相談し薬を求めるのではなく、私たちに何が出来るのかを話合っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同生活介護の意味を考えながら、スタッフという立場と、家族の様な関係に少しでも近づけるよう努めている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話対応や、面会時には近況報告等を密に行ったり、少しの時間でも日々の生活を伝えられるように努めている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅の近所の方や知人等が硝子越しでの面会や電話連絡をいただき、電話での会話を楽しんでいることがあった。しかし、最近では、認知症が進み知人の方が誰なのかもわからない事もでてきている。	受診には家族が同行している。定期的に来訪する理容師と馴染みになっている。本人の要望で自宅に荷物を取りに職員と行った。入居者同士が馴染みになり、カーテンを開けたり衣類の収納を頼み合うなどしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	出来ないことの支援をスタッフが間に入り、支援している。耳が遠い方もいるため、スタッフが会話の中の間に入り利用者との関わりを深める。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も何度か家族がホームを訪れ、本人の状況を説明して頂き、再入所の可能性もあることの説明や、相談しやすい関係づくり支援を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人が何を求めているのか、言葉で表現できなければ目で見て選んでもらう。	表現が困難な入居者に二者択一で選んでもらう対応をしている。献立はスーパー等のチラシを見ながら、好みを引き出すなど、意向の把握に努めている。入浴時は洋服を見せて選んでもらっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様本人や家族の方より、これまでの生活や経歴、出来事について教えていただいたりしている。また、より近い環境を整え安心してもらう。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日バイタルチェック、SPO2計測を行い、1人1人の変化や現状を把握出来るように努めている。状態の変化等が見られた時はカンファレンスを行いその時の状態に合わせた対応に変えたり、医師へ相談して指示をいただいたりしている。出来る限り日中は離床を心掛ける。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様それぞれについて意見があればリーダーや管理者に報告、カンファレンスを行い本人に合ったケアが出来るように介護計画を作成するように努めている。	日々の生活をモニタリングしている。車椅子で姿勢保持が難しくなった方には、座面にクッション等を使用し、1週間位試用して介護計画に反映した。食器を持ちやすく、すくいやすい物に変更した方もいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、時間を追ってケアの実践、気づきや状態の変化等をケース記録に記入して、スタッフ間で情報を共有しながら、それらを計画に生かすように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の協力も頂く方もあれば、それぞれの状況に合わせ、必要に応じて通院送迎や付き添い、スタッフが日用品の買い物等の対応を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	手仕事、掲示物作りや、季節の掲示物等で見られるところを見極め、活動している。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医へ入所後も変わらず、受診できるように送迎・付き添いを行うこともある。かかりつけ医の近況報告し、支援している。	入居者の大半は協力医による週1回の訪問診療を受けている。皮膚科や心療内科等の受診は家族が対応している。通院時は入居者の状態変化などの情報を伝えている。受診結果は職員間で共有している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	通院が必要か見極めに、法人内の特養看護師へ相談することもある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	担当医師や病院の相談員などと情報交換し、本人がどんな状態なのか、退院はいつごろになるのか等の連絡を取り合っている。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	急変がおきた時には病院に連絡を行い指示を頂くようにしている。又、連絡網やマニュアルを作成して、いつでも見られる状態にしている。通院が必要な時には楽園が丘の看護師にも協力依頼することもある。	入居時に「入居者の重度化及び看取り介護に関する指針」を明文化して、本人や家族に説明している。食欲の低下や脱水などの状態変化時には、医師の指示を仰ぎ、救急車で搬送している。最近看取りはない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変がおきた時には病院に連絡を行い指示を頂くようにしている。又、連絡網やマニュアルを作成して、いつでも見られる状態にしている。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練等の実施、併設の特養スタッフや地域の消防協力隊が火災や災害が起きた時には協力していただける。	夜間想定を含む年2回の避難訓練と消火器操作訓練を行った。法人職員や地域の消防協力隊が参加し、入居者の見守りをした。米やレトルト食品、缶詰、飲料水等3日分の備蓄をし、毛布やストーブ等準備している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人に対しての言葉遣いや態度に気をつけて接するように努めている。その時の状況に応じた言葉の使い方、声掛けを心掛けてしている。	会話の際は、本人と向かい合い、目線を合わせることを意識している。名前に「さん」付けで声かけをしている。居室への出入りは、ノックと声かけをしている。排泄時は居室のドアとトイレのドアを閉めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	場面場面で自己決定できるような問いかけや思い、希望を表わせるように言葉や態度に注意し働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースを優先に考えトイレ誘導や排泄ケア等、本人の希望に沿った生活を送っていただくように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	いつも同じ服にならない様に季節にあった服を本人へ確認し、身だしなみを整えている。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	リクエストメニューを取り入れ、誕生日に好みの物を提供している。食後の片づけを出来る限り一緒に行っている。食べやすく工夫している。個々に合わせ食形態を変えている。	食材は地域の店を利用している。献立や調理は職員が行っている。洗い物や皮むき等をする入居者もいる。誕生日に鮭やプリン等のリクエストメニューを楽しんでいる。住民や家族から、栗やきのこの差し入れがある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	箸やスプーン、フォーク、器等をその方の状態にあわせ提供している。水分量が以前より少なくなった方に対しては、スポーツドリンクやゼリーなど食べやすいもので補給してもらうなど工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自力で口腔ケア出来ない方については、支援・介助を行っている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレへの声掛けや誘導、介助にて排泄を行う方等、その方に合わせた排泄の排泄支援を行っている。	職員は排泄パターンや立ち上がるなどのサインを把握し、対応している。大半の人が、居室のトイレで排泄している。夜間は見守りや誘導、定時交換をしている。居室にはナースコールがあり、職員を呼ぶことができる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘が目立ってきた方へ牛乳、氷水、スポーツドリンクなど、その方に合わせた水分の提供を行っている。また毎日牛乳を提供している。自家製ヨーグルトも提供。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	入浴前にはバイタルチェックを行い、本人からの体調変化等について聞き入浴の可否としている。2名で介助を行い入浴している方もおり、その方に合った支援が出来るように努めている。自力で入浴できる方についてはあまり手を加える事のないような入浴を心掛けている。	脱衣所は温風ヒーターを使用、浴室内の暖房を調整できる。洗身や脱衣など自分で出来ることはしてもらい、介助がやり過ぎにならないようにしている。皮膚状態に応じ、肌に優しい石鹸を使用する人もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は活動していただき、夜間は安眠していただけるように努めている。室内の温度等にも気をつけるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフが分かるように処方ファイルを作成して、いつでも見られる状態にしている。その人にあった渡し方になっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除、洗濯干し、洗濯たたみ、調理の下ごしらえ、ゴミ捨て等、その方が出来る事をしてもらい、生活を送っていただけるように支援している。花植えや、水やりも行った。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日にはなるべく散歩と外気浴を兼ねてゴミ捨てへ戸外に出れるように支援している。外の景色や花などをみってもらう。通院時等、家族と外出が出来るように支援している。	コロナ禍で外出は通院に限られている。ホーム周辺を散歩して、気分転換や運動を楽しんでいる。敷地内で花見をした。中庭で花植えや水やりをする方もいる。外出が減った分、スイカ割りや七夕会で楽しむ支援をした。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の預かり管理は本人、家族の要請を受け行うようにしています。買い物等で使う際には出金して、台帳に記入を行っています。小銭を個人で管理している方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	公衆電話が設置されており、好きな時に電話を掛けたり、番号の確認を行ったりしている。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	談話コーナーにはテーブル、イスを設置しており、誰でもくつろげるようにしています。いつでも休むことげ出来るようにしている。	食堂には、桜や鯉のぼり、紫陽花、花火等の季節のぬり絵や貼り絵が壁面に飾られている。ソファで読書をして1日を過ごす入居者もいる。テラスのベンチで日光浴やおしゃべりをする等思い思いに過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	2ヶ所の談話コーナーを設け、ソファ、テーブル、イスを設置している。食堂前のテラスにもベンチやテーブルを置き、いつでもくつろげるようにしている。テラスにも設置してある。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の方にも協力していただき使い慣れた物や馴染みの品を持って来てもらうようにしている。GHIにて用意した物等を飾っている方もいる。	位牌や椅子、掛け時計等の馴染みの物を置き、孫の写真や手作りカレンダー、お誕生日カード等を飾っている。換気や掃除は職員が行っている。食後居室で横になる入居者もいて、好きなように過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る事は、本人から依頼等があるまで見守り、なるべく自力で行ってもらうように声掛けを行っている。又、一緒に行う事で安心、安全に生活が送れるようにしている。		